

# 教育用コンピュータシステムの更新にあたって

情報処理センター所長 湊 敏

早いもので、本学に情報処理センターが開設して以来20年が過ぎようとしている。さらに、来年度は教育用コンピュータシステムの5回目の更新時期を迎えることになる。この20年間の本学における教育へのコンピュータの活用方法を振り返ってみると、コンピュータおよびソフトウェア自体は変化しているものの、教育内容に関しては大きな変化は見られない。その内容は、基本的にはコンピュータの操作法およびアプリケーション・ソフトウェアの利用法である。しかしながら、一般社会ではコンピュータの高性能化と通信技術の発達により、インターネットが普及して、コンピュータの活用方法は大きく変化した。

インターネットの普及で最も変化した点は、コンピュータが通信手段の1つになったことである。これまでのコンピュータ利用では、コンピュータの向こう側はコンピュータであった。例えば、ワープロを使って文書を作成する場合を考える。コンピュータの利用者は、コンピュータに向かって文字を入力し、文書を作成するだけである。一方、インターネットの世界では、電子メールの相手は人間そのものである。また、ホームページや電子掲示板では、情報の発信者は人間であり、情報の受信者も人間である。すなわち、インターネットの世界では、コンピュータは人間と人間のコミュニケーションを取り持つメディアの1つに過ぎない。

現在、この人間と人間のコミュニケーションを取り持つインターネットの性質を利用してeラーニングを行う大学が増えてきた。このeラーニングには2つの考え方がある。1つは、従来の授業内容をインターネットで配信することにより、自学自習型の教育を目指すバーチャルユニバーシティである。この考え方は、通信教育部や不登校児童・生徒のための遠隔教育を行うことに適している。もう1つの考え方は、学内教育を強化するためにインターネットを利用しようというコース管理システムである。この考え方では、科目ごとにWebサイトを立ち上げる。このサイト内で、教員は講義資料の配布、学生からのレポートの受け取り、理解度確認テストを行うことが可能になる。受講者にとっては、受講生同士がコミュニケーションをしたり、先生への質問をしたりすることができる。また、サイト内で掲示板を設置することも可能になる。

次期教育用システムでは、このコース管理システムの運用が可能になるように計画している。現在、情報処理センターでは1部の先生方に協力していただきホームページを利用した学習支援システムの運用を行っている。コース管理システムを導入することにより、情報技術を利用したより幅の広い学習支援を行うことが可能になるものと期待している。

情報処理センターとしては、情報技術を利用した学習支援を今後積極的に進めたいと考えている。このため、学習支援に関して、多くの先生方からご意見・ご希望を情報処理センターにいただけることを期待している。